

むすび

海はすばらしい可能性をもった存在であり、すべての地球上の生命の源である。特に私たち日本人にとって海は豊かで、広く、大きな海は明日への希望を持たせる大きな大きな存在である。私たちはこのかけがえのない海を大切にする気持ちを忘れてはいけない。なぜ浮体を取りあげたのか。それは今後私たち日本人は恵みある、広大な空間、豊かな資源と環境を活用して21世紀を生きて行かねばならないからである。そのためには海に優しい方法で接することが大切であり、海に最も優しいと考えられている浮体の技術を育てることが重要になるからである。しかも、このような技術は外国のものまねではなく、独自の創意により確立されねばならない。そのためには、我々技術者の役割は極めて大きく、この開かれた海で、情報の多重高度化、省資源・省エネルギー、地球環境保全、新素材・バイオ・超電導、新空間創出、新交通システムの開発などを促進するとともに、文化・経済・学術の国際交流を活発に進めなければならない。

参考文献

- 1) (社)日本鋼構造協会：大阪湾沿岸空間の有効活用に関する調査研究報告書「ゆたかな沿岸、海洋空間をもとめて」、1991.
- 2) (社)日本海洋開発建設協会：「人と海」－創立20年を記念して－、1993.
- 3) 大阪湾長期構想懇談会：「オーバルビジョン2025」、1991.7.
- 4) 国土庁：「四全総」、1987.
- 5) 国土庁：「すばるプラン」、1987.
- 6) 下村嘉平衛：人工島の歴史、土木学会誌（別冊増刊）、Vol.78-12、pp.10-13、1993.
- 7) 星野守他：沖縄国際海洋博覧会”アクアポリス”、三菱重工技報、Vol.13、No.4、pp.117-125、1976.7.
- 8) 海洋建築の実際・YES'89、海建、No.32、1989.
- 9) 土山昭三：海洋構造物ロイヤルフェニックス（仮称）、ビルディングレター、pp.21-27、1991.
- 10) 河内昭一他：境ヶ浜フローティングアイランド、ビルディングレター、pp.97-103、1990.
- 11) マリンフロート推進機構：浮体構造物のすすめ、1992.
- 12) (財)日本造船振興財団：造船業の需要創出に係わる調査研究報告書－浮体式コミュニティ空港並びに海上ヘリポートについて、1988.
- 13) 毎日新聞：空港のための工法の比較、11月4日（木）夕刊、1993.
- 14) 運輸省、(社)経済団体連合会海洋開発推進機構委員会、(社)鋼材倶楽部：新しい国土の創造－沖合い人工島に関する調査報告書（IV）、1986.
- 15) 運輸省、(社)経済団体連合会海洋開発推進機構委員会、(社)鋼材倶楽部：新しい国土の創造－沖合い人工島に関する調査報告書（IX）、1989.

- 16) 小林浩：海洋施設の計画と設計、日刊工業新聞社、1987.
- 17) 林伸幸：FEM-BEM結合解法による大型弾性浮体の波力応答解析、京都大学大学院工学研究科修士論文、1994.
- 18) U T A N 創刊号：特集 宇宙開発ドラマ 2001年ジャパニーズシャトルの時代 太陽発電衛星をめざして、pp.24-37、1982.
- 19) Lwin, M. Myint：Floating Bridge in the United States, Proc. of International Workshop on Floating Structures in Coastal Zone, Hiroshima, pp.56-73, 1994.
- 20) Lwin, M. Myint：Design and Construction of the Hood Canal Floating Bridge, Proc. of International Workshop on Floating Structures in Coastal Zone, Hiroshima, pp.442-453, 1994.
- 21) 水野博訳：深いフィヨルドを横断する箱形ガーダー式浮橋、Coastal Development, No. 20 (Translated with permission from Engineering News-Record, March 7, 1994)
- 22) (社)水中トンネル研究調査会：海峡横断プロジェクト(パンフレット)
- 23) (社)水中トンネル研究調査会：水中トンネル、第1編計画から設計・施工まで、第2編ケーススタディー、1995.
- 24) 芳村仁・高橋喜一・三上隆：水中トンネルの現状と課題、海洋開発論文集、Vol. 8、pp.475-480、1992.
- 25) マリーン・エクスプレス構想研究委員会：マリーン・エクスプレス(パンフレット)
- 26) 矢沢潔構成：最新巨大プロジェクト、Super Projects for the 21st Century, 最新科学論シリーズ13、学習研究社、1990.
- 27) 森邦久：ジブラルタル海峡連絡計画、道路、1990.7.
- 28) U. Meier：Proposal for a carbon fibre reinforced composite bridge across the Strait of Gibraltar at its narrowest site, Proc. Instn. Mech. Engrs., Vol.201-No.B2, pp.73-78, 1987.
- 29) Klaus H. Ostenfeld：Bridges of Today and Tomorrow, Off. Proc. Annu. Int. Bridge Conf., Vol.10, pp.1-8
- 30) 上野芳久他監修：橋の博物誌 - "橋"の世界を旅すれば、時空を越えた道が見えてくる-、鹿島建設(株)、1990.
- 31) F. Nicolussi and F. Casola：The configuration and the characteristics of the submerged tunnels for the Messina Strait crossing, Proc. of the 3rd symposium on Strait Crossings, Alesund/Norway, pp.599-606, 12-15 June 1994.
- 32) P. Grasso, G. Rabajoli and S. Pelizza：Messina Strait Crossing/Geotechnical and hydrogeological problems in the land-sea tunnel junction, Proc. of the 3rd symposium on Strait Crossings, Alesund/Norway, pp.335-342, 12-15 June 1994.
- 33) Inter-Continental Peace Bridge, PCI Journal, Vol.32, No.4, pp.140-144, July-August 1987.
- 34) Inter-Continental Peace Bridge, Concrete International, pp.66-67, May 1988.
- 35) Bridging the continents for peace, Indian concrete journal, pp.164-166, April 1988.
- 36) (社)日本港湾協会：港湾の施設の技術上の基準・同解説、1988.6.
- 37) (財)沿岸開発技術研究センター：浮体構造物技術マニュアル、1991.3.

- 38) (財)沿岸開発技術研究センター, マリンフロート推進機構:大規模浮体構造物の研究報告書、1995.3.
- 39) 増井直樹:浮遊式コンクリート構造物の動向、コンクリート工学、Vol.28, NO.11、pp.34-37、1990.